

上部内視鏡検査 同意書

【上部内視鏡検査について】

内視鏡を経口あるいは経鼻的に挿入し、食道・胃・十二指腸の各部を詳しく観察する検査です。
検査時間は5～10分前後です。必要に応じて、組織検査を行います。

【検査に伴う偶発症】

1. 使用する薬剤による副作用

検査前に喉や鼻に局所麻酔や緊張をとるために鎮静剤にてショック（血圧低下）・呼吸困難などの副作用を起す場合があります。

2. 検査手技に伴う偶発症

内視鏡検査や組織検査により消化管損傷（穿孔など）や出血を起すことがあります。

3. 経鼻内視鏡の鼻出血：内視鏡にて鼻粘膜をこすため、出血が生じることがあります。

※全国集計では偶発症は0.005%（日本消化器内視鏡学会 全国調査 2003～2007年）との報告があります。

○検査後に黒い便や強い腹痛などがあった場合は当院にご連絡ください。

万が一、副作用や偶発症が起きた場合は最善の処置を行います。

【麻酔（鎮静剤）を使用した経口胃内視鏡】

1. 緊張を和らげたり苦痛を取り除くために鎮静剤の使用をお勧めします。

2. 点滴をとり検査が始まる前に鎮静剤を使用して眠たい状態となりリラックスして検査を受けられます。

3. 安全性を高めるため、呼吸・心拍モニターを装着します。

※検査後、リカバリールームで1時間ほどお休みしていただきます。また、鎮静剤は判断力の低下、ふらつき、転倒の危険性が高まります。検査当日のお車の運転、機械操作、高所作業等はできません。

【経鼻内視鏡】

1. 鼻粘膜をこすため、鼻出血や痛みが生じることがあります。

2. 鼻炎や鼻腔の形態により、スコープ通過時に痛みや出血などが予想される場合は、経口挿入に切り替える場合があります。

3. 麻酔（鎮静剤と鎮痛剤）を使用しないので、判断力（お車の運転など）に影響しません。

【胃内視鏡の方法について】

経口法（麻酔について：鎮静剤の使用を 希望する 希望しない）

経鼻法

※鎮静剤を使用された患者様は当日、お車の運転はできません。

上記内容の説明を受け、質問をする機会を得て、内容を理解しましたので、胃内視鏡検査の実施に同意いたします。なお、上記の医療を行う上で必要な処置において予期されない状況が発生した場合は、それに対する緊急処置を受けることも併せて同意します。

記入日 年 月 日

患者様または代理人の署名：